

男女共同参画に関する区民意識・実態調査
報告書

平成27年3月

世田谷区

【性的マイノリティ（性的少数者）について】

問37 あなたは、今まで自分の性別に悩んだことはありますか。(〇は1つだけ)

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,385	810	558
1. ある	3.1	3.8	2.2
2. ない	94.3	93.8	95.0
無回答	2.6	2.3	2.9

問38 あなたは、性的マイノリティという言葉をご存知ですか。(〇は1つだけ)

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,385	810	558
1. 知っている	70.0	67.4	74.4
2. 初めて知った	26.5	29.5	21.7
3. その他	0.7	0.7	0.7
無回答	2.7	2.3	3.2

問39 あなたは、性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思いますか。(〇は1つだけ)

	全 体	女 性	男 性
全 体	1,385	810	558
1. 必要だと思う	70.0	74.4	63.3
2. 必要ないと思う	4.3	1.4	8.6
3. わからない	21.5	20.4	23.3
4. その他	1.7	1.5	2.0
無回答	2.6	2.3	2.9

第12章 男性相談

12-1 男性の悩みについての相談

「誰かに相談したいと思ったことがありますか」という質問については、「あった」が43.7%であるのに対し、「なかった」が52.7%と、9.0%上回っている。

年代別でみると、「あった」は20代では7割以上と特に多くなっている。一方、60代では約2割と少なくなっている。

→ p 195 図12-1-1

12-2 無料で利用できる相談機関

男性の無料で利用できる相談機関については、「自身のメンタルヘルス（心の問題）やストレスなどの相談」が最も多く、次いで「介護についての相談」、「仕事・雇用・転職・再就職・起業などの相談」、「健康・病気・障害などの相談」が続いている。また、「利用しない」が約3割を占めている。

→ p 197 図12-2-1

12-3 相談員の性別

相談員の性別については、「どちらでもよい」が69.0%と多数を占めており、「男性」が14.7%、「女性」が11.5%である。

→ p 200 図12-3-1

年代別でみると、「女性」は20代が22.9%と最も多くなっている。また、「どちらでもよい」は全ての年代で6割を超え、特に50代以降では7割を超えて多くなっている。

→ p 200 図12-3-2

第13章 性的マイノリティ

13-1 性別の悩みの有無

性別の悩みの有無については、「ない」が9割以上を占めている。

性別でみると、男女とも大きな変化は見られない。

→ p 201 図13-1-1

13-2 性的マイノリティという言葉の認知

性的マイノリティという言葉の認知については、「知っている」が7割を占めており、「初めて知った」を圧倒的に上回っている。

性別でみると、「知っている」は男性の方が女性を上回っている。また、「初めて知った」は女性が男性を上回っており、性的マイノリティという言葉の認知度は男性の方が高い傾向にある。

→ p 203 図13-2-1

13-3 性的マイノリティへの人権施策等の必要性

性的マイノリティの方々への人権施策等の必要性については、「必要だと思う」が7割と多くなっており、「必要ないと思う」を大きく上回っている。

性別でみると、「必要だと思う」は女性が男性を上回っている。

→ p 205 図13-3-1